

ウラル学会通信

第 69 号

2010 年 6 月発行

訃 報

2009 年 12 月 18 日に小泉保前会長がご逝去されました。

小泉前会長は、ウラル学会発足当初から学会の活動に関わられ、1977 年から 2004 年まで、27 年の長きにわたって学会会長を務められました。小泉前会長なくして、今日のウラル学会はないといっても過言ではありません。

また、小泉前会長は、フィンランド政府からカレワラ銀メダル、フィンランド文化財団からリョンロート・メダル、フィンランド大統領より第 1 級白バラ勲章を授与されるなど、日本のウラル学の開拓者であり、また、日本のウラル学の第一人者でもありました。

去年の春には、理事会でお元気な姿を拝見していただけに、大変残念でなりません。享年 84 歳でした。謹んでご冥福をお祈りいたします。

なお、ご葬儀にあたり、井上紘一会長が弔辞を朗読いたしました。また、ウラル学会として斎場に供花一對をお供えしました。

第 37 回ウラル学会研究大会について

第 37 回ウラル学会研究大会・総会は、来る 7 月 3 日(土)に麗澤大学東京研究センターで開催されます。皆様ふるってご参加ください。当日の予定は次ページの通りです。



会場の麗澤大学東京研究センターは、新宿駅西口アイランドタワー4階4104号室にあります。周辺に、「アイランドアトリウム」「アイランドウィング」という似た名前の建物があるので、お気をつけください。

新宿駅西口からの所要時間は徒歩10分です。都営地下鉄大江戸線**都庁前駅**からは徒歩5分です。東京メトロ丸の内線**西新宿駅**はアイランドタワーと直結しています。新幹線東京駅をご利用の方は、東京駅で東京メトロ**丸の内線荻窪行**に乗り換えられると便利です。

東京駅からJR新宿駅までの所要時間は、中央線を利用して約15分です。
品川駅からJR新宿駅までの所要時間は、山手線を利用して約20分です。
東京駅から丸の内線西新宿駅までの所要時間は約20分です。

麗澤大学東京研究センターのWebページ <http://rock.reitaku-u.ac.jp/link/traffic.html> もご参照ください。

第 37 回ウラル学会研究大会プログラム

日 時	平成22年 7 月 3 日(土) 10:15～17:00
場 所	麗澤大学東京研究センター (東京都新宿区)
開 会	10:15
研究発表	10:20～11:00 田中孝史 (筑波大学研究員) マリ語のアスペクト補助動詞 ка яш “行く”について 11:00～11:40 松村一登 (東京大学) エストニア語の否定極性表現とコーパス 11:40～12:20 大西耕二 (新潟大学) ウラル語族の西オセアニア語群北ニューギニア・クラスター 由来性とドラヴィダ語族との系統関係：Swadesh基礎100語彙の 身体部分名称語彙の比較に基く解析
昼 食	
理 事 会	
総 会	13:50～14:20
研究発表	14:20～15:00 岡本真理 (大阪大学) スロバキア新言語法(2009)とハンガリーへの影響
企画講演「ウラル学会と日本のウラル研究」	15:00～16:00 井上紘一 (関西外国語大学) ウラル学会の先達たち 16:00～17:00 池田哲郎 (京都産業大学) 20世紀日本のウラル言語学—村山七郎とハンガリー—研究—
閉 会	17:00

大会終了後、会場周辺で懇親会を予定しております。懇親会にもぜひご参加下さい。

事務局便り

1. 第 36 回ウラル学会研究大会・総会について

第 36 回の研究大会・総会は、昨年 7 月 11 日(土)、京都産業大学で開催され、予定通り無事終了いたしました。京都産業大学の生田真人先生に、「19 世紀のオーストリア帝国からみたハンガリーの政治と文化 — グリルパルツァーの演劇作品を手がかりに — 」と題した講演をお願いしたほか、下記の 5 件の研究発表を行いました。

千葉庄寿 (麗澤大学)

フィンランド語の許可構文に現れる不定詞について:大規模コーパスにもとづく分析試論

松村一登 (東京大学)

エストニア語の他動詞文における「接格+動詞 mast 形」構文

池田哲郎 (京都産業大学)

ハンガリーのことばと文化 — 13 世紀の『我が懐かしきマーリアの嘆き』とヨーロッパ —

大島 — (国立国語研究所)

オーストリア・ブルゲンラント州のハンガリー語話者言語データの保存に関する試み:

電子コーパス構築における諸問題

大西耕二 (新潟大学)

子音対応法則に基づくウラル語数詞および基礎語彙の中東部マラヨポリネシア語群由来性

2. ウラリカ 15 号について

ウラリカ 15 号につきましては、諸事情により刊行が遅れておりますが、近日中に刊行の予定です。追ってウラリカ 16 号の原稿も募集いたしますので、ぜひご投稿ください。

3. ウラル学会 2008 年度(2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日)会計報告

収 入		支 出	
前年度より繰越	649,072	通信費	6,830
会費	242,000	消耗品	1,170
郵便貯金利子	918	ホームページ維持費	5,300
寄付	300		
計	892,290	計	13,300
		次年度へ繰越	878,990

4. ウラル学会の会費について

既にご案内のように、2008年度から、一般会員の普通会費を3000円から5000円に値上げいたしました。ウラル学会の運営は、会員の皆様の会費によって成り立っております。今年度はウラリカ15号の刊行も予定されていますので、ぜひご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ウラル学会会費規定

- 第1条 ウラル学会会則第5条および第7条の規定に従い、会員は毎年、年度末までに会費を納入しなければならない。
- 第2条 年会費の額は以下のとおりとする。
- | | | |
|------|----|---------|
| 普通会費 | 学生 | 3,000円 |
| | 一般 | 5,000円 |
| 維持会費 | 一口 | 10,000円 |
- 第3条 年会費は本会指定の郵便振替口座に払い込むものとする。
- 第4条 年度の途中で退会する場合であっても年会費は返還しない。
- 第5条 5年以上会費の納入がない者は会員の資格を失う。
- 第6条 本規定の変更は理事会および総会の議決を要する。
- 付 則 この規定は2008年4月1日より施行する。

会費は、同封の振替用紙にて、**郵便振替口座 00870-9-120029 ウラル学会**にお振込みください。

学生の方は、従来どおり、3,000円をお願いいたします。なお、普通会費の他、一口10,000円で維持会費も募っております。ウラル学会の一層の発展のため、ぜひご協力をお願いいたします。維持会費ご納入の際は、お手数ですが、振込用紙に口数をお書き添えください。

過去に未納分がある方は、合わせてご納入いただければ幸いです。**2007年度までの未納分につきましては、学生、一般を問わず、年3,000円**をお願いいたします。「会費規定」の第5条にありますように、5年以上会費を納入いただけない場合は会員資格を失うことになりますので、ご注意ください。

5. 学会ホームページについて

ホームページのアドレスは <http://www.ural-gakkai.jp> です。昨年より、ホームページにブログ「ウラル諸語に関する情報」を開設しました。他では入手の難しい情報も掲載しておりますので、ぜひ一度ご覧ください。ホームページの内容についてご意見などございましたら、松村理事(kazuto@kmatsum.info)あるいは事務局までお願いいたします。

6. ウラル学会理事会および総会の開催について

[1] 2009年7月11日に開催した第36回ウラル学会研究大会に合わせ、2009(平成21)年度第2回理事会および総会を開催いたしました。主な議題は、1) 2008(平成20)年度決算および監査報告、2) 会計担当の交替、3) 新入会員の承認、4) 第37回研究発表大会の開催日時および会場の決定、5) ウラリカ15号の編集状況の報告および16号の編集方針の検討でした。

このうち2)につきましては、従来、早稲田理事が担当していた会計の業務を岡本幹事に引き継ぐこととなりました。なお、現在の役員は下記の通りです。現役員の任期は、2010年7月までです。

会長	井上紘一
理事	池田哲郎、佐久間淳一、庄司博史、深谷志寿、松村一登、早稲田みか
幹事	岡本真理、田代直也、千葉庄寿、吉田欣吾
会計監査	石本礼子、荻島崇

[2] 2010年4月25日に2010(平成22)年度第1回理事会を名古屋大学において開催いたしました。主な議題は、1) 故小泉保先生追悼行事の検討、2) 会長の選出方法についての検討、3) 第37回研究発表大会のプログラムの検討、4) ウラリカ15号の編集状況の報告、5) 会計引継ぎに伴う事務的な手続きの検討、6) ウラル学会の今後の方向性に関する意見交換でした。

転居などで異動が生じた場合は、お手数ですが事務局までご一報ください。

[ウラル学会事務所]

〒573-0195 大阪府枚方市穂谷 1-10-1

関西外国語大学国際言語学部 井上紘一 研究室

[ウラル学会事務局(佐久間淳一)]

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学文学研究科言語学研究室内

tel. 052-789-2275

fax. 052-789-2666 (番号が変わりました)

e-mail jsakuma@lit.nagoya-u.ac.jp